慶應義塾　創立150年記念
The 150th Anniversery of Keio University

KEIO 150
Design the Future

1858 + 150

未来をひらく 福澤諭吉展

FUKUZAWA Yukichi : Living the Future.

東京国立博物館　表慶館（上野公園）TNM
TOKYO NATIONAL MUSEUM　HYOKEIKAN［UENO PARK］

2009年1月10日（土）－3月8日（日）

プレスリリース

慶應義塾　創立150年記念

未来をひらく 福澤諭吉展

The 150th Anniversary of Keio University　FUKUZAWA Yukichi：Living the Future

開催概要

●展覧会名　慶應義塾創立150年記念
未来をひらく福澤諭吉展 FUKUZAWA Yukichi: Living the Future

●会　　期　2009年1月10日(土)～3月8日(日)
●会　　場　東京国立博物館 表慶館(〒110－8712 東京都台東区上野公園13－9)

●開館時間　9：30～17：00（入館は閉館の30分前まで）
●休 館 日　毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は開館、翌火曜日休館）

●入 館 料　一　般：当日1,200円　前売1,000円、団体900円
大学生：当日1,000円　前売　800円、団体700円
高校生：当日　800円　前売　600円、団体500円
※料金は消費税込み。団体は20名以上。
※中学生以下無料。
※障害者とその介護者1名は無料（入館の際に、障害者手帳などをご提示ください）。

●交　　通　JR上野駅公園口、鶯谷駅下車徒歩10分。東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅下車徒歩15分。京成電鉄京成上野駅下車徒歩15分。

●チケット発売　東京国立博物館正面観覧券売場(開館日のみ)
チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、イープラス、ファミリーマート、サークルKサンクス、セブンイレブン他主要プレイガイド、オンラインチケットで10月1日(水)より前売り開始。

●主　　催　東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループ（主管：産経新聞社）

●協　　賛　鹿島建設、損害保険ジャパン、大王製紙、大日本印刷、大和証券グループ、トヨタ自動車、久光製薬、JR東日本

●一般お問い合わせ　03－5777－8600（ハローダイヤル）
●展覧会ホームページ　http://fukuzawa2009.jp/

●巡　　回　福岡展：2009年5月2日(土)～6月14日(日)、福岡市美術館
大阪展：2009年8月4日(火)～9月6日(日)、大阪市立美術館

異端と先導 —— 文明の進歩は異端から生まれる

その時、福澤は何を考え、どう行動したか。

慶應義塾は2008年、日本の近代総合学塾として初めて創立150年を迎えました。これを記念して、東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループは、2009年1月10日(土)から3月8日(日)まで、東京国立博物館表慶館(東京・上野公園)にて、慶應義塾創立150年記念「未来をひらく福澤諭吉展」を開催する運びとなりました。

慶應義塾の創立者・福澤諭吉(1835-1901)は、幕末明治の激動の時代にあって思想家として革新的な活動を展開し、日本の近代化に大きな足跡をのこしました。

中津藩(大分県)の下級武士の家に生まれ、10代より漢学を習い、ついで大坂の適塾で蘭学を学んだ福澤は、1858年に23歳の若さで江戸に蘭学塾(後の慶應義塾)を開きます。また、独学で英語を習得し、欧米各国を3回にわたって訪問し、知見を深めました。そうした経験をもとに『西洋事情』など西洋文明を紹介する書を著し、明治維新後は『学問のすゝめ』『文明論之概略』などを世に問い、近代日本の進むべき道を、提唱しました。

日本近代化の功労者といわれる福澤諭吉ですが、当時の知識人がこぞって官職を求めたなかで、生涯、無位無冠の一市民であることを貫きました。気品ある人間性、個人が自立するための教育、男女平等、地方分権、創意ある起業、メディアの開拓、国際的視野——福澤諭吉が提起した近代化の課題には、今日もなお、解決をみていないものが少なくありません。

福澤諭吉の言葉の背後には、常に激しい批判精神が秘められています。「異端」として排斥されることをも恐れず、権威や世論の大勢に抗して、自分の知性が信ずるところを堂々と述べる勇気と気品。福澤は、そのような姿勢にこそ、文明の進歩があると信じた思想家でした。

本展覧会では、福澤の多方面にわたる先導的な活動を捉えなおし、その遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書、および福澤の門下生が収集した美術コレクションや慶應義塾ゆかりの名品などを体系的に紹介します。その随所に見られる「異端」と「先導」の創造性にみちた交錯は、近代化から150年を経てなお混迷を増す現代社会において、私たちが進むべき道を考える一助となるでしょう。

展覧会のみどころ

本展は、福澤諭吉の思考と活動の輪のひろがりを、第1部から第6部へと、関連するさまざまな資料に即して紹介します。

まず、福澤自身の個人の生活を紹介し、ついで家族の交わりや市民同士の交際の場の確立へ、そして慶應義塾における教育活動、近代社会の実業発展にむけた貢献へ、さらに公共分野での先進的な取り組み、また国際社会への提言へと展示を進めます。第7部は、福澤の門下生たちが収集した美術コレクションを中心に、絵画や工芸の優品を展観します。

なお、福澤が慶應義塾の原点となる理念を述べた「山口良蔵宛書簡」（6ページ、写真番号10参照）を本展覧会にて初公開します。

第1部　あゆみだす身体
「身体」をすべての基本と考えた福澤。その身体観にそって日常生活を再現。

第2部　かたりあう人間（じんかん）
男女、家族、そして市民の交わり。新しい社会をつくる「人間交際（society）」の構想をあとづけます。

第3部　ふかめゆく智徳
「独立自尊」の個人を育てるための教育活動を、福澤自身の知の形成とともに紹介。

第4部　きりひらく実業
一国の独立の基礎として奨励した「実業」世界。門下生の地方での奮闘にも光をあてます。

第5部　わかちあう公
演説の創始、『時事新報』の発行など、福澤の新しいメディアをとおした活動を解明。

第6部　ひろげゆく世界
海外体験やアジアへの視点など、国際社会との取り組みを検証します。

第7部　たしかめる共感　福澤門下生による美術コレクション
福澤に学んだ経済人が収集した美術コレクションのほか、慶應義塾ゆかりの名品を展示。

※会期中、展示替があります。

LIVING the FUTURE

第1部　あゆみだす身体

独立した個人の基盤として「身体」を重視した福澤は、居合い・米つき・散歩を日課とし、家族団欒をこよなく愛した生活人でした。この思想の巨人を、一人の生き生きした日常の姿でとらえ、散歩の際の携行品や家族写真をはじめとする日常愛用の諸資料から、等身大で再現します。

1 福澤諭吉落款印〈三十一谷人〉

慶應義塾福澤研究センター

福澤が雅号のように用いた「三十一谷人」の五文字は、権威を嫌った福澤らしく「世俗」という漢字をばらしたもの。

2 散歩中の福澤諭吉

学生有志を「散歩党」と称して毎朝出掛けた福澤の散歩姿を捉えた写真。

3 大熊氏広（おおくまうじひろ）〈福澤諭吉座像〉

明治25年（1892）　ブロンズ
慶應義塾志木高等学校

日本近代彫刻の先駆者大熊氏広による、福澤本人を前にして制作された唯一の彫刻。しかし自らが偶像視されるのを嫌った福澤自身が蔵にしまいこみ、はからずも第二次世界大戦中の供出を免れた。

貸出写真

4 川村清雄（かわむらきよお）〈福澤諭吉肖像〉

明治33年（1900）　油彩・カンヴァス
慶應義塾監局

福澤の写真をもとに描き始め、仕上げにいたって福澤本人を前にして描かれた作品で、福澤晩年の姿をもっともよく伝えるという。

貸出写真

第2部　かたりあう人間（じんかん）

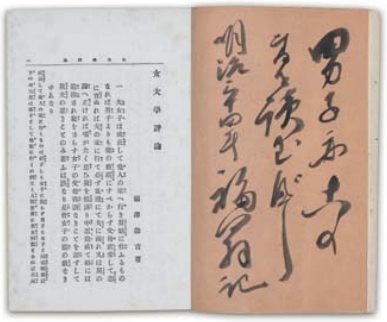
「独立して孤立せず」。独立した個人はいかに社会を形成するのか――男女間、家族、そして「社中」、「塾」の創成にもとづく市民的な社交。福澤の描いた個と個の交際、「人間交際（Society）」の思想と実践を紹介します。

5 福澤諭吉『女大学評論・新女大学』署名本

明治34年（1901）
慶應義塾福澤研究センター

福澤の最後の著書である女性論。「男子またこの書を読むべし」との自筆書き込みは、死の直前のもの。

貸出写真



6 女性宣教師アリス・ホアと福澤の姪ら

明治9年（1876）頃

イギリス人宣教師ホアは福澤家に住み込み、援助を得ながら少女たちに英語やキリスト教について教えた。

7 福澤夫妻肖像写真

明治33年（1900）
慶應義塾福澤研究センター

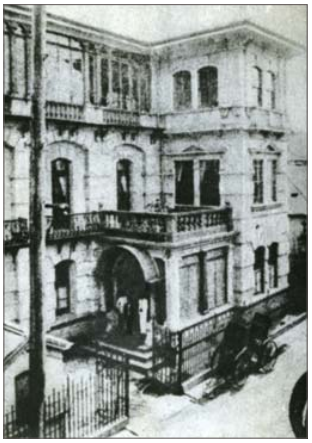
福澤は封建的な男女観の打破を生涯を通じて唱えた。明治の時代に夫婦での肖像写真は珍しい。

貸出写真

8 交詢社社屋

明治時代末～大正時代頃

福澤が理想とした独立した個人の集う場として明治13年（1880）に創設され、今なお続く日本初の社交クラブ。



第3部　ふかめゆく智徳

独立自尊の個人の育成を望んだ福澤の教育活動。自身の知の形成と慶應義塾におけるその展開が、150年の歴史を語るさまざまな展示品から、よみがえります。福澤は知性とともに気品の涵養をめざす学塾教育を実践し、格式を嫌い、型破りな自由さを貫きました。「僕は学校の先生にあらず」と断じ、生徒と教員とをいわば対等にとらえる書簡などからその独創性を示すとともに、現在の慶應義塾における研究・教育の先端的試みの一部も紹介します。

9 福澤諭吉『文明論之概略』刊本

明治8年（1875）
慶應義塾福澤研究センター

貸出写真

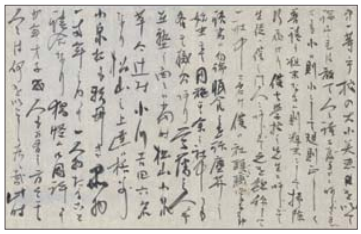
文明とは何かを体系的に説いた福澤の代表的著作。

10 福澤諭吉〈山口良蔵宛書簡〉

慶応4年（1868）閏4月10日付
慶應義塾福澤研究センター

慶應義塾と命名し本格的学塾として歩み出した直後に友人に出した手紙。小なりとも日本一の教育に取り組んでいるとの自負を持ちながら、教師も門人もなく共に学ぶ結社「社中」であると、慶應義塾の原点となる理念を述べている。初公開。

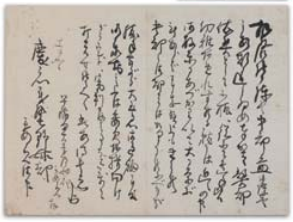
貸出写真



11 早慶戦開始の挑戦状

明治36年（1903）
慶應義塾福澤研究センター

明治36年（1903）に開始され、日本中を熱狂させた早慶野球戦。そのきっかけを作った早稲田大学野球部から慶應義塾野球部への挑戦状。



貸出写真

12 福澤諭吉〈独立自尊迎新世紀〉遺墨

明治34年（1901）
慶應義塾福澤研究センター

19世紀最後の日に世紀送迎会を開催し、20世紀を迎えた朝に揮毫した書。福澤はこの約1か月後に没し、事実上の絶筆となった。

貸出写真

13 和田英作〈ステンドグラス原画〉

1910年頃　油彩・カンヴァス
慶應義塾図書館

慶應義塾図書館にあるステンドグラスの原画。西洋文明と日本の伝統社会との出会いが主題となっている。

貸出写真

第４部　きりひらく実業

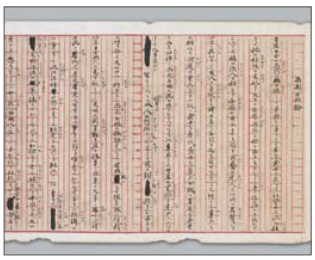
福澤は、官尊民卑の封建的思想を打ち破り、一国の独立の基礎に、実業への挑戦をおきました。いまだ尚武立国を旨とする時代に、あえて異例な「尚商立国」を掲げ、商＝ビジネスの役割を説いて多数の経済人を輩出し、「福澤山脈」を築きました。とりわけ本展では、福澤の教えを受けた者たちが都市部での起業のみならず、日本の隅々まで挑戦の裾野を広げた事実に注目し、従来、あまり語られなかった「もう一つの福澤山脈」にも光をあてます。

14 福澤諭吉「尚商立国論」自筆原稿

明治23年（1890）
慶應義塾図書館

明治23年（1890）、『時事新報』紙上に発表された福澤の論文。官尊民卑を脱して経済人を尊ぶ必要を論じると同時に、彼らに「独立自尊」の気品を求める。慶應義塾のモットーともいえるこの語は、ここで初めて使用された。

貸出写真



15 オールドノリタケ　ディナーセット「SEDAN」の内　ディナー皿、シリアル碗、ティー碗・皿

大正3～10年（1914～21）
ノリタケカンパニーリミテド

福澤門下生の大倉和親は、日本で初めて硬質白磁の大量生産に成功、製陶業の草分けとなった。

貸出写真

16 依田勉三決意姿

明治14年（1881）頃
帯広百年記念館

依田勉三（明治7年入塾）は、北海道開拓の結社「晩成社」を結成して十勝に入植。凄まじい辛苦の中で生涯を終えるが、その活動は十勝開拓の礎となり「拓聖」と呼ばれた。

貸出写真

17 デニール検査用秤（下村亀三郎資料）

上田市立丸子郷土博物館

下村（明治18年入塾）は、郷里の信州丸子で同志と近代的組合製糸である「依田社」を結成。従業員の福利厚生に尽くしつつ、海外において品質の信用を確立、丸子を糸の町に育てた。この秤は、厳密に生糸の規格と品質を守るために使用された。

貸出写真

LIVING the FUTURE

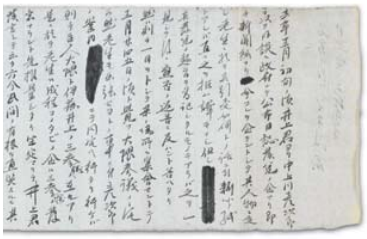
第5部　わかちあう公

国と個人はいかなる関係にあるべきか。「公」と「民」の対立・協調は現代社会も直面する課題ですが、福澤は議会制の発展を希求しつつ、他方で明治政府の権威主義には徹底して容赦ない批判を加えました。同時に「公」と「民」をつなぐ新しいメディア、つまり「演説会」を創始し、中立的な日刊新聞『時事新報』を創刊しました。民の立場を貫きつつ、「公共」メディアの改革者であった福澤の活動を浮き彫りにします。

18 福澤諭吉〈伊藤博文・井上馨宛書簡控〉

明治14年（1881）10月14日
慶應義塾福澤研究センター

近代日本の国家構想を決定づけた「明治十四年の政変」にあたり、伊藤・井上と交わされた息の詰まるやり取りを伝える長文書簡の自筆控え。以後伊藤・井上とは絶交状態に陥る。



19 『時事新報』創刊号

明治15年（1882）
慶應義塾図書館

福澤が創刊した日刊新聞。明治後期から大正期には「日本一」の新聞と呼ばれ、メディアとして様々な先駆的アイデアも打ち出した。

貸出写真

20 「三田演説日記」

明治7年（1874）
慶應義塾図書館

福澤が門下生と共に始めた日本初の演説会の日誌。明治初期、演説は最新のメディアであり、また娯楽でもあった。

21 松村菊麿模写〔原画：和田英作〕〈福澤諭吉演説像〉

昭和12年（1937）　油彩・カンヴァス
慶應義塾塾監局

コミュニケーション手段としての「演説」を日本において創始した福澤。その演説姿を描く。

貸出写真

第6部　ひろげゆく世界

福澤は近代世界の中の日本をどのようにとらえ、何を発言し、それは今日のわれわれにいかなる課題を残しているのでしょうか。アジアへの視点、そして彼がやり残した課題を問い直します。福澤の海外体験を検証しつつ、異文化への幅広い視野など、グローバリズムの現代からみても示唆深い彼の国際社会にむけた提言をあとづけます。

22 少女と写った福澤諭吉肖像写真

江戸時代 万延元年（1860）
慶應義塾福澤研究センター

初めての外遊で訪れたサンフランシスコで、写真屋の娘と写した有名な写真。女性と写っているだけでなく、刀をはずし着流しで撮っているのも珍しい。

貸出写真

23 グーテンベルク印行『42行聖書』

1455年頃
慶應義塾図書館

活版印刷を発明しメディア革命をもたらしたグーテンベルクによる印刷本聖書で世界に48セット現存するうちの一つ。様々なメディアを通して思想を世に説いた福澤も、若き日にロシアでグーテンベルク聖書を見ている。

貸出写真

24 『フランク・レズリーズ・イラストレイテッド』紙

江戸時代 万延元年（1860）
慶應義塾福澤研究センター

幕府使節団の様子を絵入りで伝えるアメリカの新聞。日本の使節に向けられた関心がうかがわれる。

25 ロンドンでの福澤諭吉

江戸時代 文久2年（1862）

幕府遣欧使節の一員としてロンドンを訪れた際に撮影。

貸出写真

第７部　たしかめる共感　福澤門下生による美術コレクション

福澤諭吉は、実学を国の基礎として重んじる一方、「国光は美術に発す」との言葉を残しているように、近代の人間社会に果たす芸術や文化の役割をよく認識していました。そして、門下生たちは実業の世界にあって文化的な交際を大切にしました。本展では、福澤諭吉に教えを受けた門下生らが収集した美術コレクションの名品を展示します。また、国宝〈秋草文壺〉など、慶應義塾所蔵の貴重な作品の展観も行います。

26 〈秋草文壺〉

平安時代（12世紀）　渥美
神奈川県川崎市幸区南加瀬出土
慶應義塾　国宝

貸出写真

神奈川県川崎市で発見された渥美窯の壺。草花の優美な線刻表現は、王朝貴族の美意識に通ずる。

27 〈色絵金銀菱文重茶碗〉野々村仁清

江戸時代（17世紀）　1対
静岡･MOA美術館　重要文化財

貸出写真

実業界で活躍した後、茶人として名を馳せた益田英作の旧蔵品。江戸時代初期に活躍した京焼の大成者仁清の入子式の茶碗。金銀の菱文を大胆に配し、鮮明な赤・緑・黒の色彩を金色の界線で纏め上げた斬新な文様は、端正な器形によく映え見事である。

LIVING the FUTURE

お問い合わせ先

●慶應義塾広報室●
TEL：03-5427-1541　FAX：03-5441-7640　〒108-8345東京都港区三田2-15-45

●「慶應義塾創立150年記念　未来をひらく福澤諭吉展」広報事務局（株式会社ウインダム内）●
TEL. 03-3664-3831 FAX. 03-3664-3833　〒103-0014東京都中央区日本橋蛎殻町1-28-9ヤマナシビル4F